

農 薬 を 憐 れ む

考えてみると、農薬という存在は、憐れである。高名な女流作家が余技でものした糾弾の書が、‘農薬漬け’などという非科学的な言葉に市民権を与え、未だにそれは廃れない。品種改良を業としてきた筆者は、遂にそれ程までに耐薬性の強い作物が育種されたのかと、転感慨に耐えないが、‘馬鹿と鉄は使しよう’という古諺も、差別語使用で禁ぜられたらしい。

農薬の大部分は、絶対という表現を許せば、すべてが‘毒’であろう。虫や細菌を殺すものが、われら人類にだけ、‘絶対に無害’である筈がない。それが使用できるのは、神の摂理によって、病虫害諸君の耐性・抵抗性が、多くの場合、われらや作物のそれに劣るからに過ぎない、と筆者には思われる。

無農薬・無肥料栽培論者の方々と問答（議論ではなく）すると、根本的な点で理解の異なる事に気付く。それは、それらの方々が、‘自然な場’で‘自然に育った作物’が、最も安全であり最も‘自然な味’を持つと思ひ込んでおいでのことである。

卑見をもってすれば、作物（特に野菜）はすべて‘自然な植物’ではなく、人間が利用すべく改造（彼らには、全く‘良’でない）した、‘遺伝する病的な奇型を持つ植物’であり、人間と共生することによってのみ、その特性と生とを保ち得る植物である。そしてその‘奇型で有用な部分’をめぐって、人間と病虫害諸君が、その使用権を争っているのが、すぐれて‘反自然的な’栽培は場の姿である。

農薬なくして、われら人間は強大な病虫害諸君とは闘えない。彼らは、よし心無き徒によっ

目 次 (第19巻第10号)

会長就任挨拶…………… 2

＜日本植物調節剤研究協会会長 杉 頼夫＞

21世紀を見通したバイテク育種の推進
——「バイテク育種2000年」—— …… 3

＜農林水産技術会議事務局長 榊淵欽也＞

農薬業界の回顧と展望…………… 5

＜農薬工業会会長 宗 展生＞

昭和60年の回顧…………… 5

業界をとりまく環境と対策…………… 5

昭和61年の展望…………… 6

西ヨーロッパにおける主要作物の雑草防除………… 7

＜住友化学工業株式会社 嶺 昭彦＞

1. は じ め に…………… 7

2. 西ヨーロッパの除草剤市場…………… 7

3. 主要作物畑の雑草…………… 8

4. 主要作物の除草剤…………… 11

5. お わ り に…………… 14

昭和60年度春夏作芝生関係除草剤・
生育調節剤試験成績概要…………… 15

昭和60年度桑園関係除草剤・生育調
節剤試験成績概要…………… 21

昭和60年度春夏作野菜花き関係除草
剤・生育調節剤試験成績概要…………… 23

て、自動販売機などに誤用されることがあろうとも、それには何らの責任もない、われらの強力な戦友なのである。

〔社団法人 日本施設園芸協会会長 西 貞夫〕
〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事